

LIM

TODAY'S TOPIC

銭湯

10月10日は「1010（せんとう）」で「銭湯の日」。

最近では家族で楽しめるスーパー銭湯が普及しましたが、それ以前は街中の銭湯が一般的でした。

そんな銭湯も平成26年度には※ 4,293軒と、ピーク時だった昭和43年の17,642軒の4分の1にまで減少しています。

持ち風呂が当然となり、経営者、利用者ともに高齢化が進んでいる現在ですが、近年では代替わりした経営者によるリニューアルやターゲットを若い人や外国人観光客向けに切り替えた銭湯もあり、活路を見出そうと努力が続いています。

※ 総務省発行「衛生行政報告例」公衆浴場の数より

銭湯の基準とは…

公衆浴場法では、日常的に衛生上の目的のために利用する浴場を「普通公衆浴場」としており、これを「銭湯」と呼んでいます。

一方で「スーパー銭湯」や「健康ランド」、「サウナ風呂」などは「その他の公衆浴場」として区別されているのです。

銭湯の歴史

一般的に銭湯の形態を取ったのは鎌倉時代頃とされています。

それ以前は僧侶が身を清めるために寺院内に水蒸気を身体に浴びて汗を流す「浴堂」が設置されていました。

それが荘園制度が無くなるとともに庶民に解放され広まっていきましたが、江戸時代の中ごろまでは蒸し風呂の形態が続いていたようです。

現代のような形が一般的になったのは明治時代の初期に確立された「改良風呂」からとされています



銭湯の日に合わせて最近ではイベントを行う銭湯も増えてきており、ラベンダー湯を実施したり（東京都浴場組合）、落語の寄席を開催、タオルや入浴グッズのプレゼントなどが行われています。

皆さんも家風呂から少し気分を変えて銭湯でひと風呂！いかがでしょうか。



From the author・・・風呂上がりのコーヒー牛乳やフルーツ牛乳の美味しいこと美味しいこと！

